

## 平成 29 年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人純正福祉会 青葉桐の花保育園

評価項目の達成・取組状況・これから改善したいこと

評価項目	取 組 状 況
I 保育の計画性	園の教育理念・教育方針を理解し、子どもの発達や興味・関心を考慮した上で指導計画を作成している。保育課程や指導計画を基に、子どもの自主性を大切にしながら日々の保育を行うことができるよう、研修や振り返りを重ねる。
II 保育の在り方 幼児への対応	健康と安全への配慮を十分に行い、速やかに家庭に連絡をしている。子どもの話をよく聞き、一人ひとりのありのままの姿を受け入れながら、信頼関係を築いている。異年齢混合保育を通して、発達の姿や課題について見通しを持った関わり方ができるように努めている。
III 保育者としての資質 や能力・良識・適性	保育士自身が、子どもにとって人的環境にあたることを意識し、挨拶や振る舞い、社会人としてのマナーなどについて留意することができている。保育における専門知識や技能を高められるよう、職員間で研鑽し合う。
IV 保護者への対応・守秘 義務	守秘義務の遵守について、意識を高く持っている。職員間で連携を図りながら、保護者と信頼関係を築いて、連絡・対応ができるように努めている。また、園だよりやクラス懇談会などを通して、家庭と園生活の相互理解を深められるようにしている。
V 地域の自然や社会との 関わり	地域のお祭り参加や芋掘りなどの収穫体験、新幹線車両基地見学など、地域との関わりを持つことができている。保育園・幼稚園・小学校との連携として、情報交換会や授業参観、公開保育や研修などを行い、就学における共通理解の場に参加して深めている。
VI 保育者の専門性に関 する研修・研究への意 欲・態度	外部講師を招いての研修や園内での自主研修などを通して、クラスでの課題や自己課題について話し合い、専門性を高められるように努めている。子どもたちの安心・安全について興味・関心を持ち、気が付いた箇所を速やかに発信し合いながら環境についての専門性も高められるようにしている。
VII 保育の在り方 3歳未満児への対応	子どもが安心して園生活を送ることができるように、育児の担当制を行い、愛着関係を大切にしている。一人ひとりの発育や発達に応じた関わりを行うことができるように、これからも子どもとの関わりを大切にする。
VIII 地域における子育て 支援	毎月2回の公開保育にて、地域の親子とふれあう機会を設けている。クラスで一緒に遊んだり、わらべうたや手作り遊具の紹介をしたりして、親しみやすい雰囲気作りができるよう努めている。育児相談や情報交換の場にもなっている。